

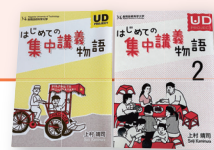
成 果 物

日本語学習途上の留学生への集中講義を積極的にFD(Faculty Development)の機会ととらえ、事前研修―講義―フォローアップを実施、学内外の教員に開放(FD道場)

◎FD効果とともに、日本語教育へのフィードバックが可能

◎研修テキスト「はじめての集中講義物語」の出版

日本語教育に専門基礎の内容を取込んだ、「**機械工学で学ぶ中級日本語**」、「**建設工学で学ぶ中級日本語**」、「**これから工学を学ぶ留学生のためのほんご練習帳**」の出版専門教員と日本語教員との協働の成果



はじめての集中講義物語



機械工学で学ぶ中級日本語
(3か国語版)

留学生へのサポート

入学後の生活サポート

入学後は、グローバル教育センターが中心となり、留学生の日常生活、大学生活、修学、健康等についてサポートやアドバイスを行うとともに、チューター制度により、渡日後の3か月間は、身近な日本人学生がチューターとして付き、幅広くサポートを行います。

留学生用の宿舎には、合計で約150名の入居が可能で、経済的負担も軽減され、充実した学生生活を送ることが可能です。アパートに入居する者に対しては、契約にあたり、機関保証制度により、大学が機関として保証をします。

また、留学生が充実した大学生活を送れるよう、毎年、見学旅行、ホームステイ等の行事を実施しています。

入学後の学習サポート

留学生が日本語・日本文化をスムーズに学べるよう、多様なニーズ、レベルに合わせた日本語授業を多数開講しています。

また、「留学生向けの日本語」を用いた工学教育方法の充実も図っています。平易な日本語(Plain Japanese)を用いた工学基礎教材の開発や工学用語辞書の出版等により、留学生の専門科目の学習をサポートしています。



日本語の授業の様子

LIFE@NUT

長岡市は、美味しい食べ物と四季折々の美しい自然、世界に通用する文化など、たくさんの魅力が溢れる都市です。そして、なによりそれらを支える温かい人たちの魅力で溢れています。

夏には「長岡まつり大花火大会」が開催され、日本全国から100万人以上の見物客が訪れます。前夜祭の「大民踊流し」には、多くの学生が浴衣で参加し、市民との交流を深めています。また、冬には一面の雪景色が楽しめます。

長岡技大は、長岡市街を見渡す丘陵に位置し、落ち着いた雰囲気のカンパスには、日本全国から学生・教員たちが集結しています。

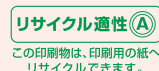


編集・発行

長岡技術科学大学 グローバル教育センター

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1 TEL:0258-47-9013, 9238, 9917 FAX:0258-47-9283

ホームページ <https://www.nagaokaut.ac.jp/>



2024.6

2024-2025

長岡技大の 国際展開

Vitality

Originality

Services

Toward the World

- ・高等教育に必要とされるスキル、知識を習得する機会を全ての人に提供する
- ・世界各国の高等教育制度において、能力を育成する
- ・持続可能性を推進する

United Nations
Academic Impact

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

長岡技術科学大学は国連アカデミック・インパクトのメンバーであり、SDG9ハブ大学に任命されています。

<https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/daigakusyokai/sdgs/unai/index.html>

国立大学法人
長岡技術科学大学
Nagaoka University of Technology

長岡技大が目指す国際交流

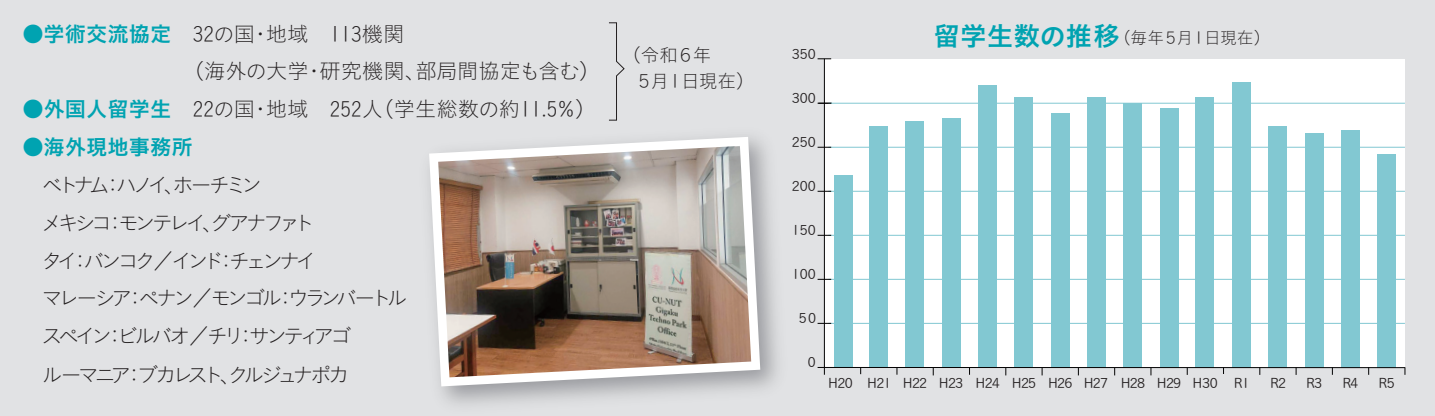
長岡技大は、創立以来約50年の間にきわめて**特異な国際交流を展開**し、グローバル社会に対応した教育・研究システムの礎を築き上げてきました。また、技大の特徴である全国の高専と連携し、一体となることで、世界に類をみない大規模な国際性豊かな高等教育研究組織体を形成することが可能な環境にあります。

今後も、これらのリソースを最大限に活用し、日本の技術力・ものづくり文化を世界に広め、異文化・自国文化を理解したグローバルに活躍できる工学系人材を社会に送り出し、世界に貢献することで、激動するグローバル時代においても「**確固たる存在感のある長岡技大**」を目指します。

01 広がる国際ネットワーク 国際交流の実績

長岡技大は、発展目覚ましい東アジア・東南アジア諸国、中南米諸国などを中心として、各国の大学・研究機関等と国際学術交流協定を締結するとともに、多くの外国人留学生・研究者を受け入れており、全世界に広がるグローバルな技術者育成教育・研究ネットワークを構築しています。

また、高専等との連携により、海外の大学・研究機関等から最先端研究情報等を収集、分析する体制の構築を目指しています。



飛躍するグローバル人材 グローバルに活躍できる工学系人材の育成

グローバル社会が到来し、工業技術、生産・価格、人材の世界レベルの競争が始まっています。今後、「技術立国」日本を支える人材は臆することなく世界に飛び込む実践的・創造的技術者です。

長岡技大は、開学以来独自の長期インターンシップ科目「実務訓練」を行っており、日本人学生の「内向き」が指摘されているなか、グローバル社会に対応するべく海外への派遣を積極的に進めていくとともに新たな海外実務訓練先の開拓も行っています。

今後も、海外機関との交流等を通し、日本人学生の海外活動の機会をさらに増やし、国際感覚豊かな学生を育成する「**双方向の交流**」を目指します。

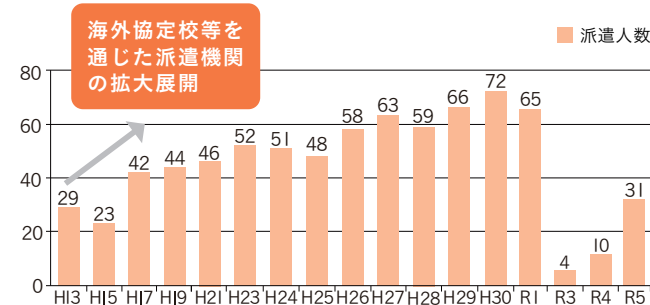
実務訓練概要



5か月間の実務訓練
海外: **1025名**履修
学部・大学院一貫教育

H15年度 特色GPに採択(文部科学省)
H15年度 工学教育賞・文部科学大臣賞受賞(日本工学教育協会)
H30年度 大学等におけるインターンシップ表彰「優秀賞」(文部科学省)

実務訓練の実績



実務訓練制度の概要

社会との密接な接触を通じて、将来、指導的技術者として活躍する際に、必要となる人間性の陶冶と、実践的技術感覚を体得させることを目的として、学部第4学年後半に約5か月間、企業、官公庁等において実務訓練(インターンシップ)を昭和54年より実施しており、平成2年からは海外へも派遣先を広げました。

海外実務訓練 (平成2年から実施)

令和5年度実績

派遣学生: 31人 派遣国: 9カ国 21機関

これまでの実績(令和5年度まで)

※派遣学生(累計) 1,025人

※派遣国・派遣地域

イギリス、インド、インドネシア、オーストラリア、スペイン、タイ、ドイツ、ノルウェー、フランス、ベトナム、マレーシア、メキシコ、ロシア、フィリピン、ルーマニアなど

※海外派遣企業・研究所

アイエムリンクベトナム(ベトナム)、アグハルカル研究所(インド)、Azbil Production(Thailand) Co., Ltd.(タイ)、ADVANTEST(M) Sdn.Bhd.(マレーシア)、NECベトナム(ベトナム)、Evozon(ルーマニア)、オーストラリア原子力科学技術機構(オーストラリア)、KOBOSIA(ベトナム)、Silo Software Consulting SRL(ルーマニア)、ニデックプレジジョン精密(タイランド)株式会社(タイ)、bGlobal Corporation(ベトナム)、Bucharest Robots(ルーマニア)、PT.Yokogawa Indonesia(インドネシア)、YKKベトナム(ベトナム)

※令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で派遣数が減っていますが、コロナ禍前は毎年約60~70人が海外実務訓練を行っています。



ここが特色!

■約5か月にわたる**長期海外インターンシップ(実務訓練)**の機会を提供しています。

■実務訓練生の約10%が**海外でのインターンシップ**を選んでいます。

社会と連携する大学 国際貢献活動、地域と連携した国際交流活動

長岡技大は、(独)国際協力機構(JICA)が実施する技術協力事業等に積極的に参加しています。特に東南アジア諸国等における高等教育開発計画においては数多くの教員を派遣する等、各国の高等教育機関の設立等に大きな貢献をしています。また、近年は科学技術振興機構(JST)の国際青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプログラム)により、アジア等の大学から学生等を積極的に受け入れ、科学技術分野の交流を行っています。

●国際貢献活動

〈現在、協力を行っている活動〉

※モンゴル工学系高等教育支援事業(M-JEED) ※アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)
※モンゴル・人材育成奨学計画(JDS) ※日越大学(連携校連絡会に参加)
※マレーシア日本国際工科院(MJIIT)計画

〈過去に協力を行った活動〉

※インドネシア高等教育開発計画 ※サウジアラビア・リヤド技術短期大学電子工学技術教育改善計画
※タイ・アジア工科大学専門家派遣 ※アフガニスタン中核人材育成プロジェクト
※タイ・バトムワン工業高等専門学校拡充計画 ※東ティモール大学工学部能力向上プロジェクト
※タイ・タマサート大学工学部拡充計画 ※ベトナム・人材育成奨学計画(JDS)
※インドネシア電気系ポリテクニック教員育成計画

Ⅰ 人材育成奨学計画(JDS)

人材育成奨学計画(JDS)は、1999年度に設立された無償資金協力によるJICAの留学生受入事業です。

「対象国において将来指導者層となることが期待される優秀な若手行政官等を日本の大学院に留学生として受け入れ、帰国後は社会・経済開発計画の立案・実施において、留学中に得た専門知識を有する人材として活躍すること、日本の良き理解者として両国友好関係の基盤の拡大と強化に貢献すること」を目的としています。本学も2018年9月から、2023年8月まで交通インフラ整備の分野でベトナムからの留学生を受け入れ、2021年9月からは、モンゴルからの留学生も受け入れています。



Ⅱ 国際青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプログラム)

科学技術振興機構(JST)が、産学官の緊密な連携により、諸外国・地域の青少年を我が国に招へいし、我が国の青少年との科学技術分野の交流を行う事業で、日本及び世界の科学技術・イノベーションの発展に寄与することを目的とするものです。

本学もこれまで、ベトナム、マレーシア、タイ、インド等の大学から、総勢200名以上の学生や研究者を招へいしています。(参考:参加者(※)353名、内招へい者218名)※2020、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインで実施。



新潟県長岡市に位置する長岡技大は、新潟県国際交流協会、長岡市、長岡市国際交流センター、地域国際交流ボランティア等と地域と連携した国際交流活動を展開しています。また、地元企業の協力による留学生インターンシップの受け入れなど、地域企業の協力を得て日本企業の技術・企業文化の理解を促進するための活動も行っています。さらに、学生・留学生は自ら進んで地域のイベントに参加・協力するなど、地域コミュニティと交流する風土が根付いています。

●長岡国際祭り

長岡市及び近隣地域市民等の国際交流及び異文化交流を目的として毎年実施。各国の料理や踊り等のパフォーマンスが披露される。(技大祭開催時に同時開催)

●その他、地域の国際交流イベント

※地域の国際交流ボランティア(むつみ会等)との協力(留学生対象の生活相談を毎週開催)
※外国人による日本語スピーチコンテスト(むつみ会主催)
※留学生を国際交流講師として地域の小中学校へ派遣(「世界が先生一国際人育成事業」長岡市)

ここが特色!

■**地域密着型**、顔の見える国際交流・異文化交流。 ■**地域に支えられた国際交流。**

Ⅲ モンゴル工学系高等教育支援事業(M-JEED)

モンゴルの主要2大学(モンゴル科学技術大学、モンゴル国立大学)の工学教育・研究の拡充を通じモンゴル産業界が必要とする工学系人材を育成することを目的としており、本学でも2018年4月からモンゴル科学技術大学のツィニング・プログラム学生を受け入れています。

Ⅳ マレーシア日本国際工科院(MJIIT)

2001年にマハティール元マレーシア首相によって提唱されて以来、政府間で検討が進められてきた結果、2011年9月、マレーシア工科大学の傘下に独立性の高い工科院として開校しました。

東方政策の集大成と位置付けられ、日・マレーシア間の共同プロジェクトとして、講座制等の特色ある日本型工学教育による高度な専門性に基づく学術研究機関でASEANにおける日本式工学教育の拠点として発展していくことが期待されています。

本学も日本側コンソーシアム大学の1つとして協力しています。

Ⅴ アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)

「ABEイニシアティブ」(African Business Education Initiative for Youth)は、アフリカの産業人材育成と日本企業のアフリカビジネスを現地でサポートする水先案内人の育成を目的として、アフリカの若者を日本に招き、日本の大学での修士号取得と日本企業でのインターン実施の機会を提供するJICAのプログラムです。本学もこれまで、南スーダン、ナイジェリア、セネガル、タンザニア、エチオピア、チュニジアからの留学生を受け入れています。



国際交流基礎データ

留学生数（令和6年5月1日現在）

区分等 国・地域		学部正規生	大学院正規生			研究生等	合 計
			修士課程	博 士 後期課程	5年一貫制 博士課程		
ア ジ ア	インド		1				1
	インドネシア	2		1	2		5
	韓国	1					1
	スリランカ		3	5	8		16
	タイ	3	2	3	1		9
	中国	8	31	24	3	7	73
	パキスタン		1	1		2	4
	バングラデシュ		4	3			7
	ベトナム	27	23	6	5	1	62
	マレーシア	9	5	1		2	17
	ミャンマー		4				4
	モンゴル	3	4	1	1		9
	ラオス	3	2				5
中 南 米	チリ					2	2
	メキシコ	15	7		4	3	29
欧 州	ドイツ					2	2
	フランス					1	1
	ベルギー					1	1
	ルーマニア					1	1
中 東	ヨルダン		1				1
ア フ リ カ	セネガル			1			1
	チュニジア		1				1
合 計		71	89	46	24	22	252

国際学術交流協定（令和6年5月1日現在）

国・地域		協 定 締 結 機 関
アジア	中国	大連理工大学、河海大学、鄭州大学、重慶交通大学、河南理工大学、※南華大学核科学技術学院
	インド	インド工科大学マドラス校、インド工科大学カラグブール校、※インド工科大学ティルパティ校機械工学科、※インド工科大学インドール校金属材料工学科、※インド工科大学パラカッド校機械工学科、※アグハルカル研究所心血管生物研究室
	インドネシア	バンドン工科大学、インドネシア大学、※ブラディータ大学
	韓国	ウルサン大学、釜山国立大学、※ソガン大学李研究室、※忠南大学獣医学部、※ゲント大学グローバルキャンパスグリーンケミストリー・環境バイオテクノロジーセンター
	マレーシア	マラヤ大学、マレーシア工科大学、マレーシア科学大学、マラ工科大学、マレーシア国民大学、トゥン・フセイン・オン・マレーシア大学、マラッカ工業大学、※モナシュ大学マレーシア校工学部
	モンゴル	モンゴル科学技術大学
	ミャンマー	ヤンゴン工科大学、ミャンマー情報技術大学
	スリランカ	モラツワ大学、サバラガムワ大学
	台湾	国立台北科技大学
	タイ	タマサート大学、パトムワン工科大学、コンケーン大学、ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校、国立科学技術開発機構、泰日工業大学、チュラロンコン大学、アジア工科大学、スラナリ工科大学、メーファールアン大学、カセサート大学、キングモンクット工科大学トンブリー校、パンヤピワット経営大学、タイ教育省職業教育局、※チェンマイ大学工学部機械工学科、※シンクロトン放射光研究所、※キングモンクット工科大学ノースバンコク校電気・コンピュータ工学科
北 米	ベトナム	ハノイ工科大学、ダナン大学、ホーチミン市工科大学、ホーチミン市技術教育大学、ベトナム海事大学、ベトナム原子力研究所、ホーチミン市科学大学、電力大学、※ベトナム国家農業大学バイオテクノロジー学部
	カナダ	マニトバ大学
	アメリカ	※コー大学物理学科
中南米	チリ	チリ大学、フェデリコサンタマリア工科大学、アントファガスタ大学、コンセプション大学、※マウレ・カトリック大学バイオプロセス工学研究室
	メキシコ	グアナファト大学、ミチョアカナ大学、モンテレイ工科大学、モンテレイ工科大学（コンソーシアム）、ヌエボレオン大学（コンソーシアム）、モンテレイ大学（コンソーシアム）、レジオモンタナ大学（コンソーシアム）、シウダーフアレス大学
	ベネズエラ	シモン・ボリバル大学
欧州	アゼルバイジャン	アゼルバイジャン科学アカデミーバクー研究所
	ベルギー	※アントワープ大学工学部
	チェコ	※カレル大学数学・物理学部
	フランス	パリ大学クレティユヴァルドマルヌ校、※ユニラサール工科大学アミアン校、※リモージュ大学セラミックス研究所、※リモージュ大学工学校、※トゥール大学ブロア技術研究院、※フランス国立科学研究センター燃焼・熱・反応・環境研究所
	ドイツ	ダルムシュタット工科大学、応用科学大学、ヴェルツブルクシュヴァインフルト応用科学大学、※ドイツゴム研究所、※ルール大学ボーフムレーザ応用技術研究室
	ハンガリー	ミシュコルツ大学
	ノルウェー	ノルウェー科学技術大学情報・電気工学部
	ポーランド	※AGH科学技術大学
	ルーマニア	ルーマニア・アメリカン大学、ブカレスト経済大学、バベシュ・ボヤイ大学、※オラデア大学
	スペイン	カタルニア工科大学、デウスト大学、生体材料共同研究センター、モンドラゴン大学、※バスク州立ナノテクノロジー研究所
大洋州	スウェーデン	※ウェスト大学
	スイス	チューリッヒ応用科学大学工学部、※スイス連邦工科大学チューリッヒ校パワーエレクトロニクスシステム研究室、※スイス連邦工科大学ローザンヌ校パワーエレクトロニクス研究室、※ジュネーブ大学植物科学科Luis Lopez Molina研究室
	イギリス	※ヨーク大学物理工学科、※ノッティンガム大学パワーエレクトロニクス・機械制御グループ
中 東	オーストラリア	オーストラリア原子力科学技術機構、※カーティン大学理工学部
アフリカ	トルコ	※オンドックスマイ大学金属材料工学科
	南アフリカ	ツワネ工科大学

※部局間又は研究室間協定